溶接材料や非鉄金属素材などを扱う精工産業（本社・東京都中央区日本橋久松町、社長・小菅治男氏）は、フォークリフトや重機などの労災事故を軽減できる接近検知システム「ヒヤリハンター」の販売を強化している。製造現場の安全管理に対する意識の高まりに対応して1月から扱いを開始したもので、鉄鋼・非鉄や自動車、物流、建機・クレーン業界などへの提案を進めている。

「ヒヤリハンター」は電波を発する専用の〝小型ICタグ〟と、タグを磁界によって感知する〝検知装置〟など複数社を窓口として構成される接近検知システム。Rの確実検知を実現。これにより交差点などでFIDメーカーのマトリックス（本社・大阪市北区）が開発し、今年1月から精工産業など広く販売を開始したもの。

構内事故防止システム

「ヒヤリハンター」

精工産業が販売強化

鉄鋼・非鉄、自動車業界へ提案

「ヒヤリハンター」は磁界を利用した〝セミアクティブ・トリガーID方式〟を採用しており、一般的な〝アクティブ方式〟では困難だった、反応範囲の一定化やタグ密集下でのタグを磁界によって感知し、重機オペレータに危険を知らせることを可能とした。

「ヒヤリハンター」はすでに自動車部品メーカーなどで採用されている。その採用事例としては、フォークリフトに検知装置を取り付ける一方、作業員にタグを持たせるといったケースが多く見られる。そのほかにも警報機と連動させたセンサを構内の要注意場所や、ICタグを所持していない人が行き来する物流倉庫の出入り口などに設置してフォークリフトの接近を感知することもできる。井手誠取締役営業第一本部本部長は「タグに番号をつけることで建物の入出記録をとることも可能。研究開発現場の入退出管理でも採用が見込まれる」とし、幅広い場面での採用に向けて取り組みを進めている。

精工産業では、新規事業室が導入を検討する企業向けに実際の採用事例を紹介している。また、デモ機器による試験導入のサポートなども展開。

「販売を開始から1年に満たないが、多くの引き合いがある。工場や物流倉庫の安全管理に課題を抱えている企業に広く提案していきたい」（井手誠取締役）としている。